

私の町の消防団

八代市立第七中学校 一年

坂本

叶実

私の町には二つの消防団があります。その中の一つに私の家の隣に住んでいるおじちゃんには入団してあります。私は、学校帰りに仲間と一緒に消防車の所に集まって整備をしているのをよく見ます。おじちゃんには町のみんなのために、冬の火災が多い夜には見回りをしたり、火事や災害が起きないようにいつも気を配ってくれています。

私がまだ小学生の時の避難訓練の時に消防署の人達が避難の仕方や、消火器を使って火を消す訓練を教えるに来てくださいました。その時は訓練だったのですが、時に恐いななどという感じはありませんでした。でも本当に火災が起きたらと思うと、とても恐くなります。訓練が終って消防署の人の話の時に「自分の命は自分で守るのです。」と言われました。私はその言葉を忘れず常に用心しておきたいと思いましたが、

そんな中起きた東日本大震災では今までに
 ない大きなゆれが起きました。その地震のえ
 いきょうで、八代にも津波が来ることを知っ
 たおじちゃんのは、夜海に見回りをしに行くこ
 とになりました。私はその時とても恐くなり
 ました。もしおじちゃん達になにかあったら、
 もし本当に津波がきたらと思うと恐くて仕方
 ありませんでした。するとおじちゃんは「お
 じちゃん達は大丈夫だよ。安心して寝なさい
 」と言われました。そして次の日の朝、また
 今日を向かえられた事にうれしく思いました。
 おじちゃんによると、東北から私達の住んで
 いる遠く離れた九州まで海水がおしよせ八代
 海も少し水位が高くなっていたと聞きました。
 私はこんなに危険なことをやって私達を安心
 させてくれるおじちゃん達がとてもたくまし
 くて、信頼のできるたよれる存在だと思っ
 ました。

私の家では毎日寝る前に必ず声をかけ合
 います。「火元、電源、戸閉まりOK?」

と家を見回ります。火事が起きないようにする
 ためです。しかし私の家には地震が来た時
 の対策が不十分である事に気付きました。今
 回の地震でも家が津波に流されてなにもかも
 失った人達がたくさんいらっしゃいました。
 そのような事を考えると、私の家も災害時の
 集合場所を話し合ったりしておく必要がある
 と感じました。

地震や火災などはいつ起きるか分からない
 のが一番怖い事です。だからこれから、私の

家でも一緒にいざという時のために話し合っ
 て、消防署の人達が言われた自分の命は自分
 で守るを自覚して、日頃から災害に備えてお
 きたいと思います。私も将来おじちゃん達の
 ように命を守る仕事、看護師になりたいです。